

# 研究名：小児短腸症候群患者への GLP-2 製剤導入に関する外来看護実践

## 1. 研究の目的

短腸症候群（Short Bowel Syndrome：SBS）とは、何らかの原因で消化器官である小腸を大量に切除したことや生まれつき腸が短いことなどにより、生命の維持や成長に必要な栄養素を吸収できなくなった状態を示します。小児例は、平成 23 年の全国調査では 128 例であり、希少疾患といえます。わが国では、2021 年 8 月より経静脈栄養及び補液を必要とする短腸症候群患者に対して天然型人グルカゴン様ペプチド-2（GLP-2）の遺伝子組み換えアナログ製剤（皮下注射）が使用できるようになりました。

本研究では、短腸症候群の患者さんへ GLP-2 導入時・導入後の外来看護実践を明らかにします。希少疾患でもある短腸症候群患者さんへの GLP-2 導入に関する外来看護実践を明らかにすることは、今後導入する患者さんへの看護実践に示唆をえることができると考えます。

## 2. 研究の方法

- ① **研究対象**：2021 年 8 月 2 日～2024 年 12 月 31 日までに GLP-2 アナログ製剤を導入した患者さんの診療記録・看護記録とします。
- ② **研究期間**：倫理審査委員会承認後～2026 年 3 月 31 日迄（終了報告書提出までの期間とする）
- ③ **研究方法**：GLP-2 アナログ製剤を導入した患者さんの診療記録・看護記録から外来での初回自己注射指導時、指導後の看護実践を抽出します。

## 3. 研究に用いる情報の種類

GLP-2 アナログ製剤を導入した患者さんの診療記録・看護記録・問診票から患者の年齢・身長・体重・経静脈サポート・経腸栄養を中心とした栄養管理の状況、ストマサイズ・排尿回数・排便回数・初回自己注射指導時の看護実践、指導後の看護実践を抽出する

※患者さんの氏名など、本人を特定出来る一切の個人情報は調査対象ではなく、個人情報は保守されます。

情報利用開始日：2025 年 2 月 10 日

## 4. 情報の公表

研究内容は学会発表や学術論文の形で公表する予定です。

## 5. 研究実施機関

## 6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、**令和7年4月30日まで**に下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

### ○照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

国立成育医療研究センター 看護部 外来副看護師長（紙屋千絵）  
住所：〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1  
電話：03-3416-0181（内線：2301）

### ○研究責任者：

国立成育医療研究センター 看護部外来 副看護師長 紙屋千絵